

鹿屋女子高等学校の整備計画（案）について

【現状】

○ 定員充足率の推移

年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
充足率	86.3%	78.3%	70.8%	64.5%	74.0%	94.0%

○ 資格取得・進路指導の確固たる実績

- ・全国商業高等学校協会主催検定全 9 種目 1 級合格者数 3 年連続日本一
- ・全国高等学校家庭科技術検定 3 種目 1 級合格者数（3 冠王）
- 19 年連続県下 1 位

○ 部活動の充実

○ 地域活動の積極的実施・参加

○ 臨時校舎での生活（H25 年度～）

<大隅地域の3年前ごとの女性人口>

(単位:人)

H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41
14-16歳	13-15歳	12-14歳	11-13歳	10-12歳	9-11歳	8-10歳	7-9歳	6-8歳	5-7歳	4-6歳	3-5歳	2-4歳	1-3歳	0-2歳
3,225	3,200	3,210	3,126	3,126	3,040	3,018	3,008	3,079	3,102	3,135	3,177	3,249	3,232	3,106

(参考:鹿児島県年齢別推計人口調査結果(平成26年10月1日現在))

<大隅地域の15-17歳女性人口推計>

(単位:人)

H27	H32	H37	H42	H47	H52
2,965	2,761	2,728	2,418	2,117	1,979

(参考:国立社会保障・人口問題研究所(平成25年3月推計))

【課題 1】

次代を担う人材を育成する魅力ある学校づくり

- (1) より実践的で特色ある教育的取組の推進
- (2) 地域により密着した活動の推進
- (3) 生徒数の確保による学校運営の充実

【課題 2】

教育環境の整備

(1) 校舎の整備

- ① 老朽化への対応（築 41 年～55 年）
- ② 耐震化への対応

3 棟及び武道場の耐震性がなく、うち 1 棟は危険校舎のため、臨時校舎で対応している状況

③ 地域と一体となった開かれた校舎づくり

(2) 遠方（学区内外）からの進学希望者への対応

【今後の方向性】

鹿屋女子高等学校は、今後も鹿屋市のみならず大隅全域の女子教育の受皿として、地域資源を活かした魅力ある学校づくりを積極的・継続的に行い、次代を担う女性人材の育成を推進していきます。

○ 経営方針、教育方針、学科編成、教育課程等

鹿屋女子高等学校における魅力ある人材育成のための様々な取組について、鹿屋女子高等学校活性化検討会議を設置し、社会のニーズ、地域の要請、中学生・保護者の希望等を勘案しながら、新校舎の基本設計開始時期を別途に決定します。

○ 学校規模

高等学校において質の高い高校教育を行うためには、

- ・切磋琢磨し、多様な価値観に触れることで成長できる学習環境
- ・それぞれの専門分野の教育を行うことが可能となる教員体制

などが必要です。したがって、魅力ある学校づくりには一定の学校規模を維持する必要があります。

⇒ 現状程度の学級数を維持し、安定的に生徒数を確保できるよう地域内外に信頼される学校づくりを目指します。

【施設整備概要】

(1) 耐震性がない 1 号棟・2 号棟（西・東）・武道場を解体し、一体的に新築

(2) 延床面積：約 6,000 m²

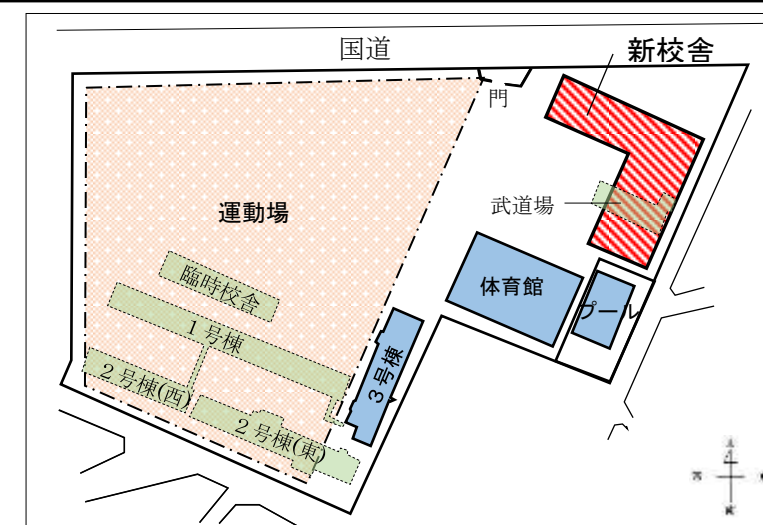
(3) 概算事業費：約 22 億円

(4) 財源対策

① 国庫補助金

- ・防衛施設周辺防音事業（防衛省）
- ・産業教育施設整備事業（文部科学省）

② 合併特例債



■: 新校舎 ■: 新校舎供用開始後も使用 ■: 解体・撤去予

【スケジュール】

	H27	H28	H29	H30	H31	H32
教育内容等		有識者部会 加計11111111 検討部会	活性化検討会議 有識者部会 加計11111111 検討部会		活性化推進会議	女子高応援団
施設整備		反映	基本設計	実施設計	本体工事	供用開始 解体・造成